

OLIS 2010 Autumn レポート

2010年度の3回目の東京セミナーとなる「OLIS 2010 Autumn」は、10月21日(木)から26日(火)まで6日間、4営業日にわたり、世田谷区等々力の「ジブラルタ生命坂ローラーニングセンター (SLC)」で開催されました。概要をレポートします。

◆ 参加者

17ヶ国 40名

性別は、男性24名、女性16名で、平均年齢は37.7歳。

国別には次のとおりです。(カッコ内は人数)

バングラデシュ (1)、カンボジア (2)、中国 (2)、香港 (1)、インド (1)、
インドネシア (7)、韓国 (5)、マレーシア (2)、ミャンマー (1)、パキスタン (1)、
フィリピン (1)、シンガポール (2)、スリランカ (1)、台湾 (6)、タイ (3)、
ウズベキスタン (3)、ベトナム (1)

また、所属の内訳をみると、

保険会社27名、政府組織・協会等が12名、大学1名という状況で、ちょうど3分の1が保険会社以外からの参加でした。

全員が、開催日前日にあたる20日(水)夜までにSLCに付属する宿泊所に集合し、翌朝からの研修に参加しました。

◆ プログラム

➤ 10月21日(木)

開講式では岡本理事長の挨拶、受講生の自己紹介などが行われました。

引き続き、オリス理事の野口修作氏から

「**生命保険事業概要**」、午後は保険ジャーナリストの石井秀樹氏から「**生命保険業界の動向**」の講義がありました。午前の「概要」は、

日本の生命保険業界の過去を振り返りつつ現在を概観するもので、午後の「動向」は現在の状況を踏まえて今後の展開を予測するものです。それぞれ内容の濃い講義でしたが、

どちらも業界の現状に触れるため、トピックスが一部重なってしまったのは止むを得ないでしょう。この2つの講義により、受講生には日本の生命保険の規模や環境要因の推移、チャネルの動向、さらには今後の方向性などが詳らかになったもの



と思われます。

なお、この日は立食形式のウェルカムランチが行われ、参加者は相互の懇親を図っていました。

➤ 10月22日（金）

午前中はオリスの古藤卓氏から「**生命保険に関する規制**」と題して、消費者保護の必要性からさまざまな法律が制定されていることを英語で説明し、それぞれの特徴を解説しました。さらに、近年社会を騒がせた不払問題についても言及し、その原因や再発防止策なども論じました。



昼食後、バスでプルデンシャルタワーに移動し、プルデンシャルグループが使用しているボードルームで「**Magic of Life Insurance**」を視聴。続いてプルデンシャル生命エグゼクティブライフプランナーの大塚伸宏氏から Beck's 10 を骨子とした「**ライフプランナーの本質**」と題する講義を受けました。講

義後は全員でプラタワを取り囲む「坂口陽史メモリアルガーデン」を散策し、随所に掲示された故坂口会長のメッセージを心に刻んでいました。

➤ 10月25日（月）

プルデンシャル生命執行役員の阪本浩明氏から「**社員制度と教育体系**」と題して、同社のライフプランナーのリクルートから育成に関する講義がありました。あたかも阪本氏が受講生をリクルートするような、具体的で勢いのある内容。スライドでは報酬制度にまで踏み込んでいたため、配布資料はなし。この HP にも掲載しないということで、逆に受講者たちの集中度は高まっていました。

午後からはジブラルタ生命執行役員の逆井幹則氏から、新ソルベンシーマージンや **Embedded Value** などを網羅的に英語で解説する「**国際金融危機等の対応**」がありました。金融危機への対応並びに保険監督や会計基準のグローバル化への対応は、どの国にとっても避けて通れない共通する問題です。確かに専門的な内容を含むため必ずしも受講者全員が深く理解できたとは限りませんが、たとえ門外漢でも概要だけでも理解すべき講義だと思われます。

➤ 10月26日（火）

東京セミナーの最終日には、毎回生保各社の社長クラスの方から「**わが社の営業戦略**」を語ってもらっています。今回は第一生命副会長の斎藤勝利氏。統計資料を用いて同社のポジションを明らかにし、損保ジャパンやアフラックとの提携、販売チャネルの展開、今後



の成長戦略などを、英語で分かりやすく説明してくれました。また、講義の合間に同社の営業社員が使用する PC のデモを行い、受講者の関心を惹いていました。印象的だったのは、斎藤氏が休憩時間中に受講者の席を回って、全員と名刺交換しただけのことです。いままでこのようなことをされた講師を知りませんので、受講者のみならずオリススタッフも感激しました。

午後はグループディスカッション。

6 グループに分かれて「生命保険業界に大きなインパクトを与えるファクターと業界の対応」をテーマに討議し、代表者による発表が行われました。

続いて閉講式が行われ、岡本理事長の挨拶と修了証の授与がありました。最後に全員の記念撮影をしてセミナーは終了しました。



➤ 10月27日（水）

成田空港行きのバスは朝6時に宿泊所を出発。羽田空港から帰国する韓国の人、日本に延泊する一部の人を除いて、大多数の受講生はバスで帰国の途につきました。

2010年10月29日
OLICD Center 古藤